

研修科目及び時間数（生活援助従事者研修）

（合計 59 時間）

科目	細 目	時間数	備 考
1	職務の理解	2	各細目時間を決めること。
	（１）多様なサービスの理解		
	（２）介護職の仕事内容や働く現場の理解		
2	介護における尊厳の保持・自立支援	6	各細目時間を決めること。
	（１）人権と尊厳を支える介護		
	（２）自立に向けた介護		
3	介護の基本	4	各細目時間を決めること。
	（１）介護職の役割、専門性と多職種との連携		
	（２）介護職の職業倫理		
	（３）介護における安全の確保とリスクマネジメント		
	（４）介護職の安全		
4	介護・福祉サービスの理解と医療との連携	3	各細目時間を決めること。
	（１）介護保険制度		
	（２）医療との連携とリハビリテーション		
	（３）障害福祉制度およびその他制度		
5	介護におけるコミュニケーション技術	6	各細目時間を決めること。
	（１）介護におけるコミュニケーション		
	（２）介護におけるチームのコミュニケーション		
6	老化と認知症の理解	9	各細目時間を決めること。
	（１）老化に伴うこころとからだの変化と日常		
	（２）高齢者と健康		
	（３）認知症を取り巻く状況		
	（４）医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理		
	（５）認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活		
	（６）家族への支援		
7	障害の理解	3	各細目時間を決めること。
	（１）障害の基礎的理解		
	（２）障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識		
	（３）家族の心理、かかわり支援の理解		

科目	細 目	時間数	備 考
8	こころとからだのしくみと生活支援技術	24	各細目時間を決めること。
	I 基本知識の学習		総時間の概ね5～6割を技術演習にあてることとし、その他の時間は、個々の技術に関連したこころとからだのしくみ等の根拠の学習及び技術についての講義等に充てること。
	(1) 介護の基本的な考え方		
	(2) 介護に関するこころのしくみの基礎的理解		
	(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解		
	II 生活支援技術の学習		
	(4) 生活と家事		
	(5) 快適な居住環境整備と介護		
	(6) 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護		
	(7) 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護		
	(8) 睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護		
	(9) 死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護		
	III 生活支援技術演習		
	(10) 介護過程の基礎的理解		
9	振り返り	2	各細目時間を決めること。
	(1) 振り返り		
	(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修		

(注1) 講義と演習を一体的に実施すること。

(注2) 「8 こころとからだのしくみと生活支援技術」においては移動・移乗に関連した実習を2時間実施する

(注3) 「1. 職務の理解」及び「9. 振り返り」においては施設の見学等の実習等を活用することができる。
この場合、各科目のすべて又は一部の項目のみを実習に充てることことができる。
そのほか、効果的な研修を行なうため必要があると考えられる場合には、他の科目においても施設の見学の実習を活用することができる。

(注4) 上記とは別に、筆記試験による修了評価（0.5時間程度）を実施すること。

(注5) 各科目内の時間配分については、内容に偏りがないように、十分留意すること。